

入学試験問題

試験科目	経済理論		
問題区分	一般・社会人・外国人共通	解答用紙枚数	2枚

次の設問から2問を選択して解答しなさい。なお、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。解答用紙には選択した設問番号を明記すること。

設問1 「利潤の源泉は剰余価値である」ことを説明しなさい。その際、数学的に論証する場合は、そこで用いる記号について、その意味を明示したうえで使用すること。

設問2 [1] 2人の消費者 A, B 、及び公共財 (y) と私的財 (x) から構成される経済を考える。この社会において、公共財を x 単位、私的財を y 単位生産するときの技術が $F(x, y) = 0$ によって与えられているものとする。他方、各消費者の効用関数をそれぞれ、 $u_A(x_A, y)$, $u_B(x_B, y)$ によって表す。さらに、各関数 F, u_A, u_B は、各変数に関して偏微分可能とする。このとき、以下の設問に答えなさい。

- (1) 公共財の定義について説明しなさい。
- (2) 公共財の最適供給条件を求めなさい。
- (3) 公共財を含む経済における市場均衡を求め、その特徴について論じなさい。
- (4) 公共財を含む経済において、市場の失敗が発生することを説明しなさい。

[2] 次の 2×2 囚人のジレンマゲームを考える。

表1 ゲーム1

		プレーヤー2	
		協力	非協力
プレーヤー1	協力	(a,e)	(b,f)
	非協力	(c,g)	(d,h)

以下の設問に答えなさい。

- (1) ゲーム1において、戦略の組（非協力、非協力）を唯一のナッシュ均衡戦略とする。このとき、各プレーヤーの利得 (a, b, c, d, e, f, g, h) の間に成立する条件を求めなさい。
- (2) ゲーム1が N 回 (N は有限の数とする) 繰り返されるときの、ナッシュ戦略とそのときの均衡利得を求めなさい。
- (3) ゲーム1が無限回繰り返されるときの各プレーヤーの戦略とそのときの均衡利得を求めなさい。なお、利得が無限大となる可能性を避けるため、割引率 $\delta \in (0, 1)$ を導入しなさい。

設問3 1980年代以前の日本の家計貯蓄率は先進諸国に比べて圧倒的に高い水準にあった。その理由を説明するためにいくつかの考え方が存在する。

- [1] ライフサイクル仮説に関連する考え方と、その考え方の問題点について述べなさい。
- [2] 流動性制約・恒常所得仮説に関連する考え方と、その考え方の問題点について述べなさい。

2018年度(平成30年度) 金沢大学大学院人間社会環境研究科(第1期募集)
入学試験問題

試験科目	経営学(会計学を含む)		
問題区分	一般	解答用紙枚数	2 枚

次の設問から 2問を選択して解答しなさい。なお、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。解答用紙には選択した設問番号を明記すること。

設問1 日本企業において、1990年代以降株主の発言力が注目されるようになったのには、どのような背景があっただろうか。また、今日においてそれはどのような展開を見せているか、概説・論評しなさい。

設問2 「スピードの経済」という言葉を解説するとともに、それがなぜ現代の企業経営において重視されるのか、論じなさい。

設問3 資産を貨幣性資産と費用性資産に分類した場合、それぞれの資産に分類される具体的な例をあげなさい。そのうえで、貨幣性資産および費用性資産の特徴について述べなさい。

設問4 会計情報を財務諸表本体に計上するのと、注記にして開示する場合とでは、どのような違いがあるか。注記に関する具体例をあげて説明しなさい。